

うきたむ

第42号

2014.2.25

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

山形県東置賜郡高島町大字安久津 2117 TEL 0238 - 52 - 2585
FAX 0238 - 52 - 4665



山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館開館 20 周年

開館二〇周年

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 森谷 幸

県立うきたむ風土記の丘考古資料館は、平成五年の春に開館して今年度二〇周年を迎えました。

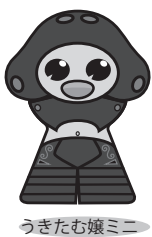
「うきたむといえば押出」といわれるように、常設展示資料では、通称縄文クッキーと呼ばれる炭化食物や彩漆土器（レプリカ）、また展示室の中心に配置された復元住居など、押出遺跡の資料が特に目を引くものとなっています。また、出土した数々の遺物は、一千点を超えるものが押出遺跡出土品として重要文化財に指定されています。これまでに押出遺跡にスポットを当てた展示を二回（企画展・特別展）、押出遺跡を中心とした展示を一回（企画展）行っており、館を代表する資料となっています。節目となる今年度の企画展は、「開館二〇周年記念」を掲げ、盛大に開催しました。

縄文時代から近世まで、県内各地から総数一六〇〇点を超える資料を集め展示し、期間中はギャラリートークや記念講演会を行いました。そして、一月末日をもって無事閉展いたしました。

体験学習では、勾玉や弓矢作り、土器作りなど、製作を通じて考古学に親しんでもらう普及活動に取り組んでいます。平成一三年に始まった体験イベント「赤ちゃんの手形をつくらう」は、今では五月のゴールデンウィークの定番となりました。その他、子供から大人まで楽しめる体験事業を多く行っています。

展示や学習事業をはじめとする館の活動や運営には、館に関わる多くの機関や人々の協力があって成り立っている部分が少ないありません。

今後の考古資料館のあり方も、館を取り巻く人々の協力のもと、質の高い展示と、門戸の広い体験学習、わかりやすい講座など、これまでの二〇年を踏まえ、より良いものへと進んでいければと思います。



年のあゆみ

(主に 2003 ~ 2013 年まで)



開館の頃の考古資料館外観 (1993 年頃)



東北芸術工科大学と共催の
高畠石シンポジウム (2009 年 12 月)



ビデオコーナー・現図書コーナー (2003 年)

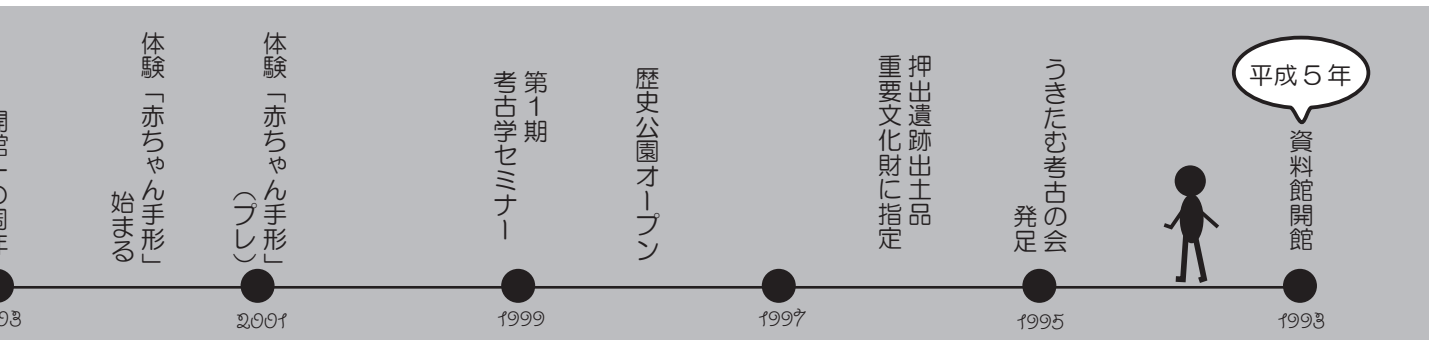
風土記の丘構想による最後の風土記の丘として整備された山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館は今年度開館二〇周年を迎えました。



文化体験プログラムによる土器作り
覆い型による野焼き (2005 年)



歴史公園をテーマにしたフォトコンテスト (2001 年)



写真でつづる 考古資料館 20年



東日本大震災で倒れた土器
(2011年3月11日)



アオソの繊維(アングンの材料)(2001年)



企画展示室がウォルケースになりました
(2012年3月)

館に持ち込まれた珍しいモノ



じゃがいもの実(2003年)



笹の実(2012年6月)

第21回企画展で展示した
押出遺跡の土器の一部を
常設化しました
(2013年12月)



この年うきたむ学講座が始まりました(2007年1月)

平成25年

開館二〇周年

2013

新規資料追加

常設展示

ウォルケース設置

東日本大震災

2011



2009

第一期
うきたむ学講座

2007

新規資料追加
常設展示

2005

開館一〇周年

2003

開館二〇周年記念企画展

スナップ写真

総点数
1,000 点以上

◀ ロビー展示から企画
展資料が並びます



◀ 企画展示室



旧石器時代から近世まで、幅広い年代と数々の資料が一堂に会したこの度の企画展は、テーマである行政による県内の発掘調査の成果と研究史がよりよくわかるよう展示に工夫を凝らしました。

▶ 注口土器



▲ 庄巻の土偶展示



▲ もう一度見たかったあの資料も再び！

◀ 古代の移動式
カマド



企画展は11月30日をもちまして無事閉展いたしました。多くの方々にご来館いただき、大変好評でした。



▲ 中世陶器

▶ 企画展の期間中、常設展に追加された説明パネル。他に期間限定で一部資料を追加展示。

